

## 「1年を振り返って」

校長 **松田圭右**

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を頂いておりますことに厚くお礼申し上げます。

今年度はコロナ禍により、「緊急事態宣言」が発令し、長期にわたる臨時休業、部活動大会や定例の学校行事の縮小・中止など、学校運営が大きく揺さぶられる年となりました。生徒の皆さんには、課外活動の縮小や新しい生活習慣の協力など、不自由で不完全燃焼な年となったことと思います。保護者の皆様には長期の休業による授業不足や入試制度のコロナ対応への遅さなど大変心配された年だったことでしょう。

生徒の皆さんは、窮屈な生活の中でも感染予防に良く取り組み、工夫によりいくつもの行事を達成してくれました。心より感謝します。また、授業については、教員の努力と生徒達の協力により、必要な時数を確保できたことを、ご心配をお掛けしましたことのお詫びと合わせてご報告いたします。今年度のこの経験から、教育現場にいる我々も多くのことを学んだと思います。学校教育において授業時数も大切であります。1年生の入学後の生徒指導、2年生の志望に合わせた進路指導、3年生の目標に向けての就職・進学補習指導など適時適宜の指導の大切さや、寮歓迎会、村の運動会、保護者協力の下行われてきた学校祭など、今まで行われてきていた行事の意味を再確認したと思います。

ご心配をおかけしました卒業式につきましては、3月1日、コロナ対応のため、卒業生と保護者参加にて実施。今年も34名は全員卒業を果たし、それぞれの進路に向かい本校を巣立って参りましたことをご報告いたします。

先ほど、適宜適時の大切さを申しましたが、高校において3月は、成績等をもとに進路について助言・相談を行う大事な時期であり、生徒にとって制作活動に励むほか、1年を振り返り次年度の計画を建てる大事な時でもあります。

この春休み、生徒それぞれの将来の夢や希望に向けて、貴重な時間として頂きますようご指導をお願い致します。

そして、保護者の皆様には、どうぞ生徒達との対話の中から生徒達の自己目標の明確化のためのご支援をどうぞよろしくお願い致します。

## 【職員異動】

【転出】  
松田 圭右 校長  
「北海道滝川工業高等学校」

川崎さつき 教諭(美術)  
「北海道留萌高等学校(教諭)」

三谷 佳典 教諭(美術)  
「札幌市立真駒内曙中学校(教諭)」

【退職】  
棚橋 栄治 教諭(保健体育)

## 離任者より

校長 **松田圭右**

この度、3月末をもちまして異動となりました。在任中、村民・同窓生・PTAの皆様には一方ならぬご支援を賜りましたこと、厚くお礼申し上げます。

本校勤務を命じられたとき、「おといねっぶ美術工芸高等学校」について有名な芸術専科の高校として認識しておりませんでした。着任し生徒達と接するにつれ大きな感動と責任の重大さを強く感じたのを今も覚えています。

授業での態度、課外活動での作品制作に取り組む姿勢、寮生活に於ける自律心や他を思いやる優しい心根。正に石塚耕一先生著の「軌跡の学校」であると感じました。

高校は小・中学校とは異なり、学校生活と社会生活の境界となる教育機関であり、社会へのジャンプ台であります。本校は専門高校であり、同方向に飛び飛距離だけを競う学校ではありません。いろいろな方向に着地点がある学校であります。私は今まで「人は努力した分だけ幸せになる資格がある」と生徒に教えて参りました。

生徒諸君には、大学で学を志す者、技能を究める者、芸術を志す者、それぞれの目標を定め努力しその道のバッケンレコードを掴んで欲しいと願います。

最後となりましたが、本校をご支援頂きました皆様のご健勝と音威子府村ならびに「おといねっぶ美術工芸高等学校」の益々の発展をご祈念申し上げます。有り難うございました。

体育科 **棚橋 栄治**

15年前に恵まれたクロスカントリースキー環境を求めて網走から音威子府中学校に赴任し、3年後に村の依頼を受けて本校に赴任。以来9年を経て60歳となり定年を迎えたものの、生涯現役(クロカン指導者としても体育教師としても)を信条に生きてきた事もあり、体育教師とクロカン部の顧問を諦めきれずに再任用を申し出て3年。63歳となって遂に40年間の体育教師生活を終えることとなりました。

本校で過ごした12年の間、数多くの生徒と出会い、クロカン部の顧問としてはインターハイでの男子総合優勝2回(2連覇)、女子総合優勝1回、インターハイ、高校選抜、ジュニアオリンピックを含む全国チャンピオンを男女合わせて6名輩出することができました。また、オリンピックや世界選手権、ジュニア世界選手権にもクロカンやバイアスロンで多くの選手を送り出すこともできました。また、ここ数年は毎年1年生の宿泊研修担当として企画立案から引率も経験し、毎年1年生と楽しい時間を過ごすこともできました。しかし、今年度はコロナ禍により、1年生にとっては高校生活で1度しかない宿泊研修、私にとっては40年間で最後の宿泊研修が中止になってしまったのが残念であります。2年前には退職金をほぼ使い果たして村内に自宅を新築し、退職後も村民として生活と活動の拠点を音威子府村にしていく覚悟を決めました。

当然可能な限り本校(生徒やクロカン部)との関わりも持ちつつ、村民の健康や我が国におけるクロスカントリースキーの拠点としての本村と、日本クロカン界発展の為に精進していく所存です。そして何よりも本校の生徒たちに音威子府村の魅力伝えるべく、一緒に山菜取りに出かけたりもしてあげたいと思います。

保護者、生徒の皆様、地域の皆様、大変お世話になりました。そして今後とも宜しく願いいたします。

工芸科 **川崎 さつき**

平成25年4月に赴任し、初めての木工に右往左往していたことを思い出します。当時の実習助手から丸いスツールの制作を通して、機械の操作を覚えることから始まり、試行錯誤の8年間を過ごしました。初めて担任を経験し、卒業生を送り出したこと、本校の特色である寮の行事の運営や村民運動会など生徒と楽しい時間を過ごすことができました。同時にこの8年間は生徒から学ぶことがたくさんありました。胆振東部地震では停電により不自由な生活が強いられるなか、トイレの水を浴槽からバケツリレールで対応、食堂に村役場から借用した電源で照

明を点灯し、薄暗い中、考査に向け自習に励む姿や居室に同学年同士で集合し、怪談話で盛り上がっている生徒、寮監付き添いのもと星空を見に行く生徒など互いに協力し、励ましあいながら対応していました。新型コロナウイルスの流行が始まった昨年の2月以降の生活様式の一変には生徒の中で様々な戸惑いや葛藤があるなか弁当や消毒に冷静に対応し、文句も言わず順応しようとしている姿に感銘を受けました。ここでの濃い3年間の生活は卒業後、必ず糧になります。卒業後のなりたい自分を想像し、頑張ってください。「おといねっぶ美術工芸高等学校」の益々の発展をご祈念申し上げます。保護者、生徒の皆様、地域の皆様、8年間大変お世話になりました。

工芸科 **三谷 佳典**

北海道唯一であり、全国でも数少ない工芸科高校で、作品制作に向き合う姿勢、まわりを思いやる優しい心、夢を創造し真剣に語るができる情熱など、親元を離れて一所懸命自分を磨き続けている生徒のみなさんから沢山の感動を頂きました。私にとって、おと高で過ごした5年間は、とても貴重な財産であり今後にかける糧となりました。みなさんにはここで出会った人や環境との縁を大事にしてこれからも何かに挑戦し続けてほしいと思います。そして、幸せになってください。私は、みなさんと出会えて本当に幸せでした。

最後になりますが、生徒、保護者、地域のみなさま、本当にお世話になりました。この場を借りて深く謝意を申し上げますとともに、おと高の今後の発展をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

## できごと

### 《卒業式》

令和2年度第35回卒業証書授与式を3月1日に行いました。コロナウイルス感染症の影響で卒業生と保護者・教職員のみでの授与式となりましたが、生徒の笑顔がたくさん感動的な式となりました。4月からそれぞれの進路先で元気に活躍してくれることを期待しています。

